

meQru

☆☆キャッチ the ボイス ☆☆☆

車いす陸上で東京パラ目指す 副島 正純さん(47) =諫早市=

4月からの新コーナー、全国や世界の舞台で活躍している長崎ゆかりの人が、みんなへメッセージをとどける「キャッチ the ボイス」。第1回は、車いす陸上の副島正純さん(ソシオSOEJIMA)です。パラリンピックに2004年のアテネから4大会連続で出場し、メダルも手にしました。2年後の東京パラリンピックも目指している47歳の現役アスリートに、メッセージをもらいました。

(輔野沙織)

昨年12月、ハワイであった「ホノルルマラソン」車いすの部で5連覇しました。優勝は11度目だけと何度でも勝ちたい。47歳で世界にいどめるのは楽しいです。それを教えてくれたのは車いすでした。小中学生の時は勉強が好きじゃなかった。スポーツが好きで、剣道をしていました。高校をやめて働き、10代で「自分のために自分でかせぐ」ということを覚えました。

父の後をつこうと23歳で仕事場があった県外から諫早に帰り、家業の鉄工所で働いていた時のこと。自分の不注意で、重さ300kgの鉄板の下じきに。22kgほどのすき間があり、命は助かりましたが、下半身が動かなくなりました。車いす生活になり、「何でお

れがこんな思いをしなきゃいけないんだ」と思っていました。そうした中、車いすで、さらに左足を失った子と知り合いました。その子のすがたに「がんばっている人はいる。自分は上半身全部動くのに…」と感じるようになりました。陸上との出会いは、友人にさそわれて行った車いす24時間リレーのイベントでした。陸上用の車いす、さつそうと走る先輩たち。その迫力やスピード感がすごくて自分も始めました。



「車いすだからどうじゃなくて、自分が何をやりたいかが大事」と話す副島さん =諫早市内

「やりたいこと」言葉に出す

に見てほしい。その一心で4年後のアテネ大会ギリシヤの出場権をつかみ、16000リレーで銅メダルを取りました。

その後も北京(中国)、ロンドン(イギリス)、リオデジャネイロ(ブラジル)と連続でパラリンピックの車いすマラソンに出ています。車いすなので、人が走るよりも断然、スピードが速い。42・195kmと長い距離の中で「ど



2月の東京マラソンに出場した副島さん。車いす陸上が世界と戦う楽しさを教えてくれた(中島崇雄撮影)

プロフィール 1970年8月31日生まれ。諫早市小登崎町出身。長田小一長田中。2004年のアテネパラリンピックに出場し、1600リレーで銅メダルを獲得。車いすマラソンで北京12位、ロンドン4位、リオデジャネイロ11位。13年、車いすアスリートクラブの「ソシオSOEJIMA」を設立した。

ここまでひっくり返せるんじゃないか」と、あきらめない気持ちも生まれます。障害者になった時、はじめはそれを自分で受け入れられなくて、周囲の人はどう見られているのかも気になりました。でも、やりたいこと、そしてパラリンピックという目標を見つけ、「どう思われようと自分らしく、持っているものすべてをかけてやる」と思うことができました。当時、車いすマラソンはだれも知りませんでした。自分がかんばることで周りがみとめてくれました。生きることが不安だった自分が、今は走ることが大好きになり、応援されるようになったのです。車いすになって気付くことができましたが、たとえそうじゃなくても「自分が何をやりたいか」だと思います。また、それを言葉にすることも大事です。宣言します。2020年、50歳になる年に東京パラリンピックに出て、まだかなえていない夢、金メダルを取る。そのための努力を、死ぬ気でやるのが一番の目標です。